

日本の結婚観——根強い性別役割分業意識

人は一定の年齢に達すれば結婚をすることが当たり前であると考えられていた。しかし、近年では、結婚することは幸せのための絶対条件ではなく、人生の選択肢のひとつだと考える人が増えてきた。多様性の容認、価値観の変化や社会変化などの影響によって結婚観が大きく変化した。また、未婚化や晩婚化、離婚の増加、女性の社会進出、子供に対する考え方など様々な価値観が大きく変化した。

だが、女性は家庭、男性は仕事という性別役割分業意識が未だに脱却できていない。女性を家庭に縛り付け、男性も仕事や稼ぎに男性としての価値を見出され、家庭を養うという責任を負わされた。専業主婦の時代から夫婦共働きが当たり前の時代になった今でも、性別役割分業意識は変化していない。あるいは、不十分な制度や、制度はできているが意識の変化が追い付いてないなどの現状がある。

性別役割分業が男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという固定観念に繋がっており、これからの多様性を認めていく時代の妨げとなりうる。人の考えはさまざまである。一人一人にあった生き方で、男らしさ女らしさではなく自分らしく生きることが重要である。